

文学部

総合歴史学科

No.	テーマ	内容	教員名
29	現代中国の大学入試と科学	中国の大学統一入試（高考）では、日本の共通テストには見られない問題が出されます。例えば、語文（日本でいう国語）では、八百字程度の作文を書くことを求めています。中国では科学が千三百年続き、その伝統からいまでも文章執筆を重視し続けているのです。歴史的な視点から、なぜ中国では試験に対する考えが日本とは異なるかを考えていきます。	浅井 邦昭
30	ガンディーと夏目漱石のロンドン留学	M.K.ガンディーといえば、半裸に白い綿布をまとった老人の姿が思い浮かびますが、当然ながら、彼にも若い頃がありました。青年ガンディーはロンドンに留学すると、当時最先端のおしゃれを楽しみ、ダンスやバイオリンを習い、イギリス人の友人を多数作りました。留学生生活を満喫した彼は「ロンドンを気に入らない人なんているのだろうか？」と書き残しています。同じ頃、日本からの留学生に夏目漱石がいます。ガンディーと違い、夏目はロンドン生活が辛くて、神経衰弱を患ってしまいました。この授業では、2人の留学生の視点を通してイギリスとアジアの歴史的関係を考えます。	加瀬 佳代子
31	グローバル宗教と政教分離：フランスの例	2024パリ・オリンピック開会式の演出が「キリスト教への冒涇」と批判された際、マクロン大統領は「冒涇の自由」を唱え擁護しました。現在のフランスの政教分離の基礎が築かれたのは19世紀末から20世紀前半の第三共和政期です。ほぼ同時期、来日したフランス人神父たちと潜伏キリシタンの感動的な出会いがありました。日仏のキリスト教事情の交錯、現代とのつながりを読み解きます。	北原 ルミ
32	仏領ポリネシアの核実験から考える環境問題	1966年から1996年まで仏領ポリネシアではフランスによる核実験が193回行われました。ビキニ、チェルノブイリ、フクシマにおける核実験及び原発事故による放射能汚染に照らすことで、仏領ポリネシアの人々がいかに核実験についての理解や環境問題への意識を変化させていったか、さらには仏領ポリネシアの核実験がいかにグローバルな環境問題に取り込まれていったかを辿ります。	桑原 牧子
33	日本とドイツの友好関係の歴史	国際友好のあり方を考えるとき、歴史的背景を理解する事が必要になります。この授業では、日本とドイツの関係を例に挙げて、17世紀における日独関係の起源から2015年の日独友好150周年まで、日独のあいだの『友好』に関わる歴史的なできごとをピックアップして解説します。	STRALA, Jan Gerrit. (シュトララー ヤン ゲリット)
34	日本における靖国神社問題	靖国神社が、1 天皇のために、2 戦争を遂行する神社として、3 軍人・軍属だけを祀る神社として存在していることを、特に沖縄に焦点を当てながら考えてみることで、靖国問題の歴史的で多層的な理解をすすめます。	樋口 浩造

※ 授業は約50分を予定しています。

【お申込み・お問い合わせ】

金城学院大学 入試広報部

電話：0120-331791 e-mail：nyushi@kinjo-u.ac.jp



本学公式サイト